

## 文部科学省 情報ひろば 『サイエンスカフェ』

主催：日本学術会議、文部科学省

参加無料です

平成24年度・第2回サイエンスカフェを、次のとおり開催いたしますので、テーマに少しでもご興味がありましたら、お気軽にご参加ください。



日時 平成24年7月27日（金） 19:00～20:30  
場所 文部科学省情報ひろばラウンジ（旧庁舎1階）  
主催 日本学術会議、文部科学省  
講師 平川秀幸さん（大阪大学コミュニケーションデザイン・センター准教授）  
ファシリテータ 影浦 峡さん（東京大学大学院教育学研究科教授）  
須藤 靖さん（日本学術会議会員、東京大学大学院理学系研究科物理学専攻教授）  
テーマ 「3.11後の科学技術と社会—「コミュニケーション」から「ガバナンス」へ」  
定員 30名  
参加費 無料

申込み方法 事前申し込みでの受付となります。

「氏名」、「連絡先」、「7月27日サイエンスカフェ参加希望」と書いたEメールを、  
[stw@mext.go.jp](mailto:stw@mext.go.jp)（@は小文字）宛にお送りください。

東日本大震災と東京電力福島第一原子力発電所事故を経て、科学者に対する人々の信頼感は大きく低下したと言われています。6月に公表された科学技術白書でも「研究開発の方向性の決定を専門家だけに任せておけないと考えている国民が激増している」ことが指摘されています。科学技術と社会、科学者と市民との関係は大きく変わらざるをえなくなっているといえるでしょう。

こうした「信頼の危機」とも呼べる状況への処方箋として、しばしば持ち出されるのが科学者と市民のコミュニケーション、いわゆる科学コミュニケーションです。しかし、それは処方箋なのでしょうか。考えるべきなのは、科学技術の研究開発や利用の仕方も含め、社会の物事を、誰がどのように決めていくのがよいのか、そのための仕組みや実践をどう作っていくかという「ガバナンス」の問題であるように思われます。

今回のサイエンスカフェでは、科学技術をめぐるガバナンスの課題を、科学の側と市民社会の側それぞれでの「専門知の民主化／民主制の専門化」という切り口で、みなさんと一緒に考えてみたいと思います。